

学校名 霧島市立国分小学校

項 目	活動内容等
1 活動内容等	<p>霧島市立国分小学校では、総合的な学習の時間において環境について学ぶ時間を設定している。</p> <p>5年生では、SDGsの一つ「海の豊かさを守ろう」に繋がる学習を展開している。「海とわたしたち」をテーマに、海洋環境についての課題を発見し、年間を通して課題解決に取り組み、調べ上げたことをまとめ、地域へ情報発信している。</p> <p>これらの学習を通して、子ども一人一人が自分と環境との繋がりに気付き、行動に移していくとともに、地域の様々な人々と関わり合い、協力し合いながら、地域全体の環境保全に対する意識を高められるよう働きかけている。</p>
2 活動状況等 (1) 活動の動機・頻度 ① 活動を始めた動機及び開始年月	<p>令和元年度の教育課程編成において、教育課程にSDGsの視点を位置付けた。また、「探究」の視点を重視し、総合的な学習の時間の活動内容の抜本的な見直しを行った。</p> <p>5年生は、これまでも広く「環境」をテーマに活動していたが、あえて校区に海のない学校だからこそ、「海の豊かさ」に目を向ける意義があると考えた。また、子どもたちには、他人事ではなく主体的に海洋環境の課題と向き合ってほしいという願いから、テーマを「海とわたしたち」に設定した。 (開始年月：令和2年4月)</p>
② 活動の愛称名があれば記入して下さい	海とわたしたち
③ 月間又は年間活動回数	<p>総合的な学習の時間 年間 50 時間</p> <p>(学校での設定時間以外でも、休日や昼休み時間などにも各探究グループで活動したこともあった。)</p>

項 目	活動内容等
④ 活動のエリア	<p>(令和4年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 鹿児島環境未来館：自然環境保全に関する展示品見学，未来館サポーターからの聞き取り ・ 磯海岸・下井海岸：ごみ調査，清掃活動 ・ 校区内：清掃活動 ・ 校内：コンポストによる野菜栽培
⑤ 活動1回当たりの平均参加者数	<p>(令和4年度)</p> <p>5年生児童 135人</p>
⑥ 活動1回当たりの平均時間	<p>2時間</p>
⑦ 収集ごみの処分	<p>現地で収集したものを学校に持ち帰り種類ごとに分け，記録・分析した。その後，分別し処分した。</p>
(2) 活動の独創性 活動の特徴	<p>大テーマである「海とわたしたち」を基に，子どもたちは，干潟体験や清掃活動等の共通体験を通し，そこから生まれた疑問や気づきから，学級ごとに中テーマ・子ども個人や小グループでの小テーマを決定する。(例：海の豊かさを守るために私たちにできることは何だろう。海のゴミを減らすには，どのような工夫をすればいいのだろうか。等)</p> <p>子どもたちは，課題解決に向けて，予想を立てるとともに，インターネットやパンフレット，書籍等を活用したりお店や関係機関を訪ねたりして，情報を集めるなどした。コロナ対策・距離の関係で訪問が難しい場合は，講師として教室に来ていただいたり，電話で取材をしたりした。教室では，集めた情報を基に話し合ったり，予想との違いについて検討したりしながら，さらに追究したいことを見つけていった。</p> <p>11月には，中間発表として，学年全体の場でプレゼンの機会を設けた。その際，近隣の中学校のSDGs部の顧問の先生方にも来ていただき，感想や助言をいただいた。</p> <p>3月には，年間を通して調べまとめたことをリーフレットにし，地域のお店や公共施設に置かせていただいたり，回覧板で回したりすることで，地域への情報を発信していった。</p>

<p>(3) 地域への貢献度</p> <p>① 地域の環境美化への貢献</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海岸清掃や学校周辺の清掃活動を行った。 ・ 生活の中で自分たちができることをリーフレットにまとめ、自分たちの言葉で発信した。 (「ゴミのポイ捨て禁止」「3Rを実行しよう」等) ・ コンポストによる野菜栽培：生ゴミや生ゴミを捨てるためのゴミ袋を減らすために、コンポストからできた肥料を使って野菜作りに取り組んだ。
<p>② 地域住民との協力活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境保全協会の方に来校してもらい、海や水について説明してもらった。 ・ 地域のお店に依頼の手紙を書き、多くの人に情報を発信できるように、リーフレットを店内に置かせてもらった。
<p>③ 児童・生徒の活動に対する地域住民の反応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習に協力していただいたところや子どもたちの学習の成果をまとめたリーフレットを置かせていただいた校区のお店から、「地域の環境を自分たちで守ろうという思いがよく伝わった。」「子どもたちの取組が地域に広がるように、自分たちもできることに取り組みたい。」などの意見をいただいた。そのことが、地域の意識の高まりにつながったと実感した。

項 目	活動内容等
(4) 環境教育との関連 ① 環境教育と活動との結びつき	本校の環境教育全体計画にも総合的な学習の時間の本学習活動を位置付け、環境教育との関連付けも行っている。
② 活動開始後の児童・生徒の美化意識の変化	学習終了時の子どもたちへのアンケートの結果によると、意識調査で、「節電」や「食べ残しを減らす」「3Rを考えながら生活する」など、SDGs への意識が高まったことがうかがえた。
③ 当該活動以外の環境教育実践活動	「5・6年生による朝のボランティア活動」 年間を通した5・6年生の日常活動として、正門周辺の清掃活動に取り組んでいる。また、児童会による緑の羽根募金など、環境に対する活動を継続的に取り組んでいる。
(5) 当該活動で他の表彰を受けたことがありますか	なし
(6) 校内外活動のための時間の作り方	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校区外での学習時は、1校時から6校時まで終日の活動として実施している。 ・ 歩いて行けるところについては、土曜授業の3時間や平日の午前中を使った。(昼休みや放課後、休日においても子どもたちが自主的に探究活動をするこもあった。)
3 その他特記事項	なし

《資料1》

「海とわたしたち」の活動様子

【環境学習：かごしま環境未来館】



【海岸清掃】



【地域住民との協力活動：環境保全協会の方の授業】



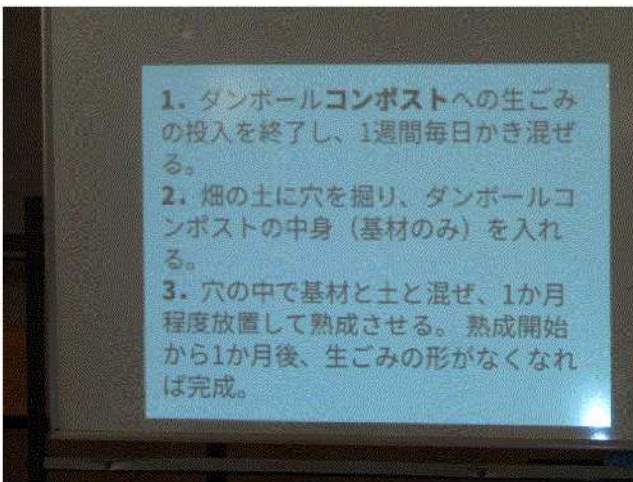
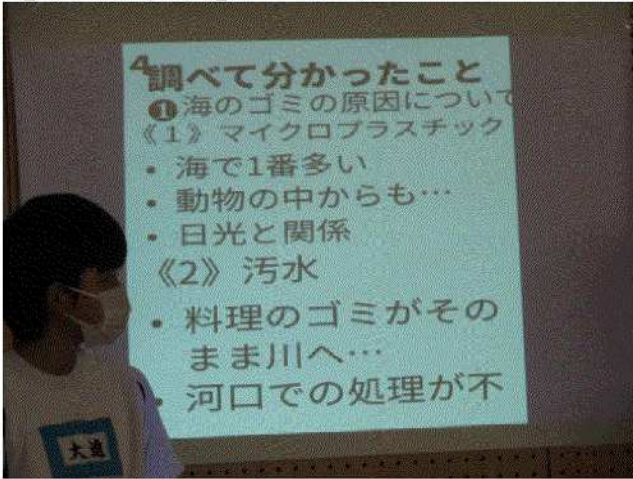
【課題解決：鮮魚店取材】



【課題解決：生活学校の方々と交流】



【中間発表会】



【学校周辺の清掃活動】



海から集めたごみを分類する児童
＝2020年10月、霧島市の国分小学校（同校提供）



海洋学習成果を リーフレットに

専門家も出来栄え絶賛

霧島市の国分小学校は、昨年度の5年生が取り組んだ海洋環境についての学習成果を「海とわたしたち」と題するリーフレットにまとめた。ゴカイやヨコエビといった小さな生き物の役割にも注目。専門家が「目の付け所がすごい」と、舌を巻く出来栄えになった。

国分小児童



国分小学校児童が作った「海とわたしたち」リーフレット

総合的な学習の時間で約1年を費やした。テーマの中心は持続可能な開発目標（SDG

5)の「海の豊かさを守ろう」。まず始良市のNPO法人「くすの木自然館」研究員、浜本麦さん(38)から千歳の生態系について講義を受けた後、四つのクラスごとに学習を深めた。国分・下井海岸のごみを分類した子どもたちは、作業中に偶然見つけた

小型の甲殻類の仲間「ヨコエビ」に注目。有機物分解能力を調べた。これらの結果は3月、A4判三つ折りの用紙に印刷し、関係機関に届けた。浜本さんは「海の豊かさをゴカイやヨコエビから考察したことに驚いた。自由研究に発展していけばうれしい」。鶴田幸伸校長は「海の恩恵を知りつつ課題も多いことを子どもたちは学んでくれたのでは」と話した。(門田天佐子)

